



Toho

東 邦 キ ャ ン パ ス

Campus

vol.140

2024年(令和6年)7月 発行

発行 学校法人 東邦学園 〒465-8515名古屋市中東区平和が丘三丁目11番地 TEL 052 (782) 1241 FAX 052 (781) 0931

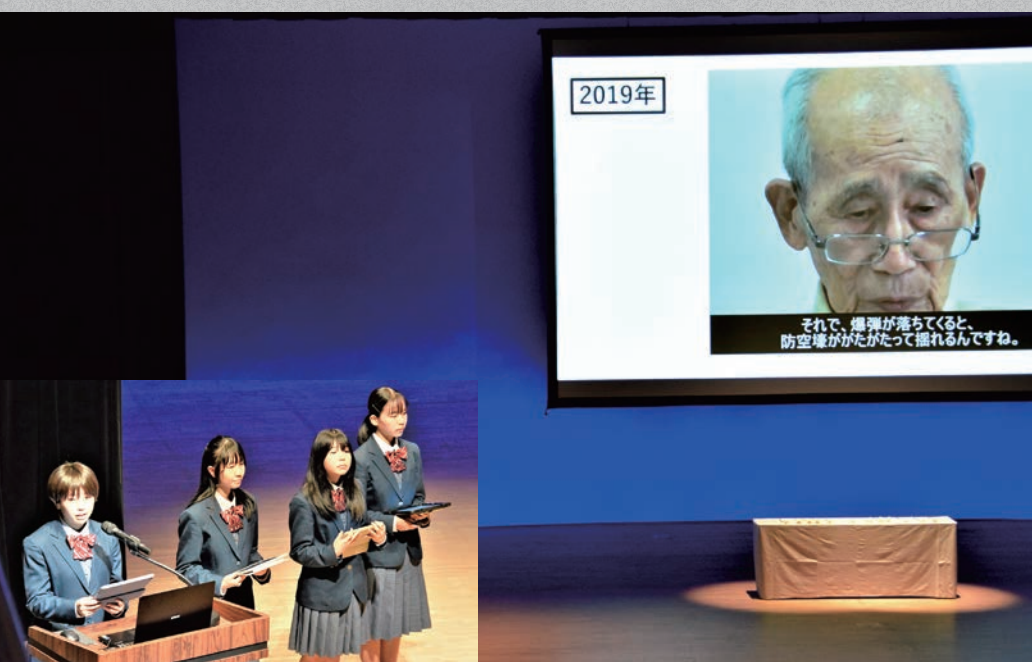
HP [東邦学園](#) [愛知東邦大学](#) [東邦高等学校](#)

特集1

「なごや平和の日」で
東邦高校生4人が
市長と「平和宣言」

特集2

2025年度から
大学・高校に新学科



「なごや平和祈念式典」で、
空襲を体験した東邦商業卒
業生からの聞き取り動画を
紹介しながら活動報告する
東邦高校の4人(5月14日、
岡谷鋼機名古屋公会堂)

目次



サッカー高校総体愛知県大会決勝で東邦高校が名古屋高校に勝ち2年連続
10回目の全国大会出場へ(6月8日、マルヤス岡崎龍北スタジアム)

これからの学園の方向を考えよう

学園理事長 榎 直樹



もしも今、創設者の下出民義先生が満162歳でご存命なら、ぜひお尋ねしたいことがあります。先生は建学の精神に『真に信頼して事を任せ得る人格の育成』を掲げられたうえで、「巣立っていく生徒に、どんな社会や時代を築いてほしいと願っておられたのですか」と。

なぜお尋ねするのか——。それはいま、101年前の創立時の想像を超えるような変化によって、私たちが対処できない時代に向っているからです。東邦学園は建学の精神を踏まえつつ、新たな変化を踏まえた教育環境を整えていく必要があると考えます。

日本は衰退し世界は分断と混乱にある

予測できなかった変化のうち、日本にとって最も深刻な問題は少子化です。かなり先ですが、人口面で日本は、世界地図から消えていく方向です(イーロン・マスク氏は公言済み)。

出生者数は、国の推計より14年早いペースで急減中です。今年は70万人を割って、戦後のベビーブームの出生者数の四分の一近くに落ち込む予想値も出ています。他方でお年寄りの比率は年々上昇、労働生産性の低さと安値競争、人手不足も相まって、日本の一人当たりGDPは世界第38位にまで後退しました。若い世代は、日本で暮らし続ける限り、行く末への不安と困難を抱えるでしょう。

眼を転じれば、覇権主義・専制主義を強める国が増え、分断が深まる世界です。ロシアはウクライナに侵攻し、日本近隣では緊迫した情勢が続きます。さらに民主主義国がポピュリズムに傾き、衆愚政治に陥っている姿です。中でも自由と民主主義の象徴だった米国で、トプリーダー自らが不都合な事実をことごとく「謀略だ、でっち上げだ」と否定し、連邦議会乱入まで煽ったことです。その結果、米国の保守系調査会社が5月に発表した世論調査では、「米国が5年以内に内戦に陥る可能性がある」と答えた有権者が41%にのぼっています。

南北戦争以来の内戦に現実味を帯び、世界にとっての「警察官役」の国の混乱は、ウクライナ侵攻のような大国による横暴な侵略を止められなくなりました。より憂慮すべきは、民主主義の根底にある信頼関係がズタズタとなり、相互不信が極度に募っていることです。

多文化共生、平和な社会に期待される「架け橋」に

こんな険しい現実を前に、教育機関は、生徒・学生をこれからの社会、時代に最も期待される人格と役割へとどう育むか、考え、新たに踏み出すときだと痛感します。

少子化対策は功を奏さず、特殊出生率の反転は容易

ではありません。このままでは日本は消えゆく運命です(国立社会保障・人口問題研究所は約200年後に人口が1千万人を切ると予測)。そのために「国の扉」を拡げ、外国の方を進んで迎え入れる方向に進むはずで、異なる人種・民族・言語・文化・宗教を持った人々と暮らす社会です。

ただ、共に暮らせば未知の出会いや発見に刺激を受けると同時に、暮らしや言語の違いから誤解、摩擦、さらに衝突も起きるでしょう。でもこれ乗り越え、互いを尊重し合える共同体に変えていかなければ、日本は近いうちに立ち往生し、将来息絶えます。

多文化共生社会にあつては、課題を先取的に設定し打開・解決しながら、コミュニケーションを図り、積極的に架け橋を務められる力を身に付けることこそ、教育機関にとって最も大切な使命の一つだと考えます。また、SNSがより多用されれば、気に入った仲間内にはか通用しない偏った意見や主張に陥りがちです。AIが作り出す巧妙なフェイク情報も溢れています。冷静で真摯を見極められる眼力を培い、「真のコミュニケーター」に育てていく必要があります。

日本に止まらず、海外でも「架け橋」役を進め、平和な地球を取り戻す役割を果たしてほしいと思いませんか。語学力、探究力を鍛えることも求められます。

「真に信頼される人格」に裏打ちされてこそ

日本は創立から100年を超す長寿企業が他国に比べて圧倒的に多いのです。創業500年という超長寿の建設会社も関西にあります。東邦学園も長寿組織に仲間入りしました。何が100年を支えてきたのでしょうか。

長寿組織は、二つに分かれます。一つは創立時からの業種・業態をずっと続けてきたこと。酒、菓子、織物を扱うお店です。もう一つは、暖簾を守って創設時の業種から繋がっているが、時代のニーズに応じて、製品の絶えざるイノベーションを続けてきた企業です。東レは繊維会社でしたが、今は航空機材に不可欠な炭素繊維を製造しています。機体を軽くしながら気圧差にも耐えうる強度を備え、燃費を向上させて長距離飛行できる時代を実現しました。同じ繊維会社の「福井経編」は、手術を繰り返すことを迫られていた心臓病患者向けに、柔軟性のある人工膜の開発に成功しました。

タイプが異なっても共通するのは、組織の社是・家訓を変えていないことです。しかも多く用いられる言葉が「信頼」です。私たちの基盤である建学の精神「真に信頼して事を任せうる人格の育成」は、この先も不朽です。

ここで述べた社会の変化とニーズに対して、高校と大学だけでは十分応えられません。学園において学ぶ年限を、課題としてきた中学校から大学院まで拡げられないか、具体的に検討します。新たな課程や学部・学科の新設・改編へ、学びの形態も不断に見直す必要があります。皆さまにはずっと先を見据えて頂き、深いご理解をお願い致します。

特集 1

「なごや平和の日」で東邦高校生4人が 市長と「平和宣言」



開会あいさつで東邦高校生たちの活動を称える河村市長

名古屋市の「なごや平和の日」制定後初となる「なごや平和祈念式典」が5月14日、名古屋市昭和区の岡谷鋼機名古屋公会堂で開催されました。条例制定のきっかけを作った東邦高校生4人が「制定までの歩み」を述べ、河村たかし市長との「平和合同宣言」を読み上げました。

条例制定求め2014年度から活動

名古屋市は1942年4月18日から1945年7月26日まで計63回の空襲により8000人近くが亡くなりました。1944年12月13日には東邦商業学校(東邦高校の前身)の生徒ら20人が動員先の三菱重工業名古屋発動機製作所(東区大幸町)で犠牲になりました。「なごや平和の日」と制定された「5月14日」は1945年5月14日に、最も多い472機のB29が来襲し国宝だった名古屋城天守閣が焼失した日です。

東邦高校生徒会では2014度から名古屋市や同市議会に条例制定を要望するなどの活動を続けてきました。市の有識者協議会が「5月14日」とする意見をまとめ、2024年3月の市議会で条例案が可決され、4月から施行されました。「名古屋空襲により犠牲になられた方々を悼むとともに、悲惨な戦争の体験・記憶を後世に語り継ぐことにより、市民の恒久平和の実現を希求する

意識の醸成を図り、もって社会の発展に寄与すること」が条例制定の目的となりました。

生徒たちの活動たたえ式典会場に東邦校歌

午後1時半から始まった式典開会あいさつでは、河村市長が「10年かかりましたが、ここにいる東邦高校の生徒の皆さん、本当によく頑張りました。私も東邦高校の『慰霊の日』に参列させていただき、名古屋市としても戦争について考える日を設けようということになりました」と東邦高校生たちの活動の成果を称えました。

この後、河村市長、東邦高生4人、名古屋市戦没者遺族連合会、名古屋空襲の犠牲者を追悼する日協議会



「なごや平和の日」制定までの活動経緯を報告する4人



「平和合同宣言」を行う4人

代表らによる献花と参列者全員による黙とうが行われました。

東邦高校の4人は西岡莉々子さん(美術科3年)、高橋愛奈さん(普通科国際探究コース3年)、柴崎彩良さん(美術科2年)、村上心優さん(普通科2年)。西岡さんは2023年度後期生徒会長で名古屋空襲慰霊の日制定実行委員長を務めました。

黙とうに続いて、4人は「なごや平和の日」制定までの東邦高校の活動の経緯を報告。三菱重工業名古屋発動機製作所空襲を体験した東邦商業学校19回生の伊藤幹雄さんから聞き取りした際の動画(2019年)も紹介されました。4人は「今の日本の社会には、私たちの声に耳を傾け、拾いあげてくれる人がいます。しかし、ひとたび戦争が始まってしまえば、声をあげることすら簡単には許されなくなるかも知れず、誰も戦争の意味など考えなくなり、思考を止めてしまうかも知れま



式典を終えた4人と榊理事長、生徒会顧問の古田知子教諭

せん。その危機感から私たちは活動してきました」と締め括りました。

式典では「なごや平和の日」制定で、東邦高校生たちの果たした役割を称え、東邦高校の校歌も流されました。

平和教育と国際理解教育の成果

式典を見守った榊直樹理事長は「10年前の慰霊の日、河村市長さんに来ていただいたのが始まりとなりましたが、その後、生徒たちの代が替わっても、活動が受け継がれ、それが、名古屋の市政を動かすことになったことは素晴らしいことです。生徒たちの宣言を聞いていて、学校がやってきた平和教育と国際理解教育が見事に結びついているなと思いました」と語りました。

東邦高校生4人の「平和合同宣言」(要旨)

戦争の記憶を風化させない



西岡 莉々子さん

戦争の記憶を風化させないため、私たち若者が力を合わせて行動し、平和を築いていきましょう。私たちには戦争体験者の方々の声を伝える使命があります。

互いに認め合う世界に



高橋 愛奈さん

私たち高校生の使命と願いは、自らの小さな行動から始めて、友好的な関係や理解を促進し、国や文化の違いを受け入れる社会を築くために貢献することです。

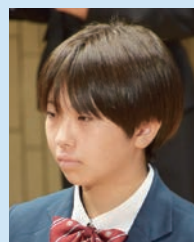
声をあげ続ける



村上 心優さん

私たちは声をあげ続けることで、戦争を繰り返さないための力をつけていきます。情熱と決意を持って行動し、声を沈黙させてはならないと強く思います。

平和な世界を作っていく



柴崎 彩良さん

私たちは体験者の方々の教を胸に、平和な社会を築くための努力し、未来の世代に繋げていきます。それぞれが小さな一歩を踏み出し、力を合わせて全力を尽くします。



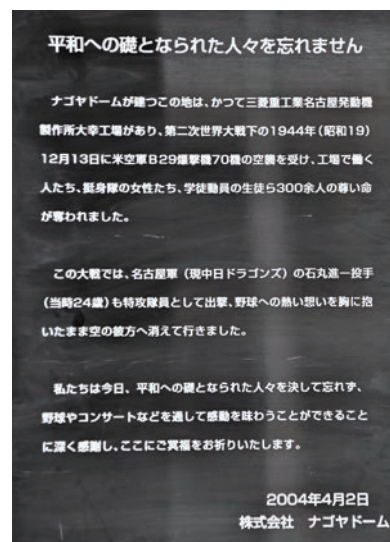
パンテリンドーム特設ブースでは空襲パネル展も



「ピースあいち」でのパネル展で取り組みについて説明する生徒たち



「なごやピースデイ」で花束を贈られる選手たち



三菱発動機空襲の悲劇を伝えるパンテリンドーム総合案内前のプレート

「なごや平和の日」が実現して

生徒会正顧問 古田 知子

2023年の年末、戦争と平和の資料館「ピースあいち」(名東区)から、「東邦高校の生徒たちの平和の取り組みをまとめたパネルを作って展示しませんか」という依頼を頂きました。これは、名古屋市会で「なごや平和の日」が可決される見込みとなり、それを記念した特設展示の提案でした。「名古屋空襲慰霊の日制定を求める実行委員会」(以下「実行委員会」)の生徒たちは「ぜひ作りたい!」ということで、早速年明けの1月から制作がスタートしました。

長年生徒会顧問を務めてきた水谷光博教諭が様々な資料提供や卒業生とのパイプ役を買って出てくださいました。特に、「平和の碑」を建立した1995年当時の先輩とメールで連絡を取り合って当時の思いを聞いたり、美術科の生徒たちがこれまでの様々な場面を絵にしたりするなど、実行委員のメンバーそれぞれが奮闘して制作を進めていきました。最終的には、ピースあいちのスタッフの方からも「正直、これほどまでのクオリティのパネルとは想定していなかった」という言葉を頂くほどの素晴らしいパネルが完成しました。

5月14日に岡谷鋼機名古屋公会堂で行われた「名古屋平和祈念式典」では、4人の代表生徒が参加し、ス

ライドを使った活動発表と宣言文の朗読を行いました。この日に至るまで、実行委員の生徒たちは、「なぜ自分たちはこのような平和の取り組みを受け継ぎ、広げてきたのか」というそれぞれの思いを何度も議論し、活動発表の最後のメッセージに込めました。感性豊かな彼らの思いは、聞いてくださった皆さんにもきっと届いたことと思います。

悲劇の跡地ドームで「なごやピースデイ」

三菱重工業名古屋発動機製作所の跡地に建てられたパンテリンドームナゴヤでは5月25日午後2時から、中日ドラゴンズ対東京ヤクルトスワローズ公式戦に合わせて「なごやピースデイ」のイベントも開催されました。

満員のドームの中で、試合に先立って選手への花束の贈呈と空襲で犠牲となった全ての方への黙とうが行われました。参加した実行委員の生徒は、試合が始まる熱気で騒がしかったドームが「急に静かになって、会場にいる方が皆立ち、黙とうしている。何かすごいです」と驚きを隠せない様子でした。

観客席の外では、市役所の方々が特設ブースを作り、空襲パネル展、選手たちの平和メッセージも紹介されました。試合観戦に来ていた親子連れや若い世代の人びとも足を止めて見ている姿が印象的でした。

特集 2

2025年度から大学・高校に新学科

経営学部は「ビジネス学科」と「コミュニケーション・デザイン学科」に

経営学部長 田村 豊

愛知東邦大学の経営学部では、2025年度から現在の「地域ビジネス学科」と「国際ビジネス学科」から、「ビジネス学科」と「コミュニケーション・デザイン学科」へと再編します。今回の再編のねらいは、今後いっそう本格化するITを基調とする社会経済の発展方向の流れを受け、経営学部としての対応したものとなっています。特に今回の再編で注意を向けたのが「Z世代」に対応する学びの構築を図ることでした。以下ではこの点を中心に説明します。

Z世代への対応

Z世代とは一般に「1990年半ばから2010年代生まれの世代」を指します。この人たちの特徴は、「マスメディア離れが顕著で、インターネット環境での情報収集が当たり前」。またSDGsなどの「社会的な問題」にも敏感。さらにブランド価値よりも自分価値重視という傾向を示す、と言われています。こうしたITと共存した若年層への対応への動きは、大学全体の学びと教育体制への変化を生み、たとえば最近の情報系学部の新設の急増はこうした社会的に見ても大学教育の軸がIT社会との対応を進めていることを示しています。

さて、ではこうしたZ世代や情報系学部の増加にどのように対応するのか。どのような価値を示せば経営学部としての個性を示せるのか。学部では検討を進め以下の三つを軸に据えました。

一つは、文理融合の方向性を打ち出すこと。二つ目はマーケティング領域を重視すること。三つ目はデザイン力の活用を打ち出すこと、でした。

まず文理融合の方向性ですが、これはデジタル社会において文系的発想と理系領域の知識や技術の両領域の力を融合してこそ発展できる。大学教育も文理の共通知識の利用を想定しています。マーケティング領域は、企業成長にとっては経営戦略上の要であり、同時にITの活用が求められている部門であるため両学科の共通領域としました。

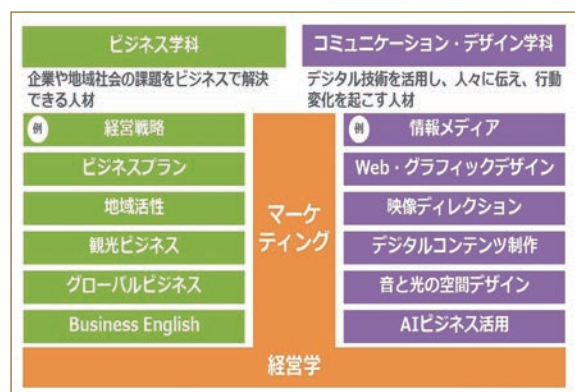
最後にデザイン力ですが、これはとくにZ世代にとっては自分の考えを形にするという点で必須の能力であり両学科に不可欠と考え、軸に据えています。実はビジネス学科の名称へと絞られる過程では「ビジネス・デザイン」という案もありました。これはビジネス自体をデザイン(設計)できる人材を育成したいということから提案されたものでした。

「少人数の学び」の重視

次に教育の内容です。今回の学科再編のねらいとして、「Z世代」に対応するためには教育方法自体を見直

すことを想定しています。もっとも重視している点は、学科共通での「少人数の学び」です。現在でも経営学部では演習を全学年に配置しています。しかし、今回の再編では従来の演習活動に加えて学科別に「プロジェクト型授業」を軸に据えて、より取り上げたい、取り組みたい課題に学習を絞る「課題別掘り下げ」「実習的課題」の実装を行いました。

具体的には、それぞれの学科では、専門的内容を軸とした小グループでの学びの構築を目指します。例えば、企業との共同開催型コンペなどへの参加をはじめ、ITの社会的課題、またITデバイスの活用方法などの学習にも対応します。それは個々の学生の要望と状況が適切にグループ内でも対応でき、より個人レベルでの教育機会の強化が必要だからです。グループ学習が必要とするIT上の技術的スキルもグループ内で身につける、スキル形成の点からも小グループの活用を想定しています。



経営学部新学科の内容

両学科の科目の特徴を専門科目の点から示すと、まず両学科とも1年生からマーケティング基礎などを学びます。その上で「ビジネス学科」には、ビジネスを発想・構築するという視点から、先プロジェクト科目のほか、「ブランド構築論」「コミュニケーション技能」「マーケティングプレゼンテーション」「ビジネスプレゼンテーション」「レジャー産業論」、さらにこれまで国際ビジネス学科で行われてきたAll English科目(「International Business English I・II」「Marketing and Management in English」)を継続し、コミュニケーション力の育成を様々行います。また「コミュニケーション・ビジネス学科」では、メディアデザイン、マルチメディア表現、デジタルコンテンツ、プログラミングの3領域を題材として、「コンテンツ・プロデュース論」「映像テクニック概論」「空間デザイン」「Webブランニング」などの科目が配置されています。

「文理融合」と「クリエイティブな視点」で

以上、学部再編について説明してきましたが、幸い3月、6月のオープンキャンパスは好調でした。その

理由として、①WebデザインなどITを使った学びとデザイン系の科目が経営学部であり文系的指向が活用できる。これは他大学の経営学部にはない魅力だ。②ITなどを考えた場合、専門学校なども魅力的だが、経営学部としてITデジタルが学べて基礎力も付きおもしろそう。③ビジネス発想を育成する勉強や、英語なども学びながらコミニカとビジネスが学べる、④学科共通入試となっているので学科をどちらにするかあ

せらず選択できる、などがプラス点として指摘されていました。

他大学では学部が文系と理系に分かれさらに技術的にも細分化されていく学びを、本学では「文理融合」と「クリエイティブな視点」から捉え直し、デジタル時代に対応する経営学部の方向を示すこと。これが今回の経営学部の再編の特徴です。みなさまのご支援をいただければ幸いです。よろしくお願い申し上げます。

「世界探究科」開設にむけて

高校国際交流室長・国際探究コース統括責任者
伊藤 保憲



国際探究コース研究発表会(2月27日)

普通科国際探究コースから48人巣立つ

2020年4月、東邦高校は普通科に国際探究コースを設置し、2024年4月には5期生55人を迎えました。これまでに国際探究を卒業していった生徒は48人。卒業生たちは東邦高校に大きな足跡を残していったくれました。自分たちが東邦の新しい歴史を作る気概にあふれ、探究活動にも学習にも大いに励んでいった1期生。そして1期生の背中を追って、オリジナリティーあふれる研究発表と卒業論文を仕上げた2期生。卒業生が残していった大きな足跡は現役の3期生以下5期生まで国際探究コースの誇りとして受け継がれています。

さて、学園創立100周年の記念事業の一つとして、国際探究コースの学科昇格が提起されました。国際探究コースの実践について総括し、課題を解消する形で学科創設の理念を含めた議論を開始しました。

世界探究科発足準備委員会では、現代は国境を越えた「人」や「文化」は衝突しあいながら、摩擦の中に多様性が生まれている時代であると認識しました。多様性とともに、格差貧困問題、飢餓、食糧、水資源の問題、自然環境の保護や言語の喪失による文化継承の問題、宗教対立、エネルギー、ジェンダー平等の推進など、様々な分野での問題や課題が世界を覆っています。

一つひとつの問題は複雑に絡み合い、一個人や一国家が解決できる問題ではありません。世界が一つとなって知恵を絞り、新しい価値観を生み出すことによって新しい世界のあり様を創生していかなければなりません。ここに「国際」探究から「世界」探究へと名称変更をした意味があります。2025年度に開設され

る世界探究科の特徴的な学びをご紹介します。

「国際」探究から「世界」探究へ

①複数教科横断的な学び

総合的な探究の時間における調査研究を世界探究科の学びの軸としています。1年生ではグループで主にはSDGsに真正面から向き合った調査研究、2年生では個人でテーマを設定した調査研究を行います。これらを各教科や専門科目がサポートしていきます。たとえば、2年次の専門科目「模擬国連・地域研究」においては、まずは「捕鯨」をテーマとしますが、様々な国の立場で一つの課題に向き合い、普遍的価値のある解決策を考えます。また、調査研究で必要となる統計の取り方や、データの読み取り方は新設の「データサイエンス」という科目の中で身に付けていきたいと思っています。

これら、複数の科目や専門科目のサポートをいただきながら総合的な探究の時間における調査研究を進めます。そして3年次には2年間の探究活動の集大成として卒業論文を執筆します。

②教室の外にある体験的な学び

1・2年次の調査研究においては、それぞれが設定したテーマについて専門家にお話を伺うことを必須としています。大学の先生や、企業団体の皆様に生徒本人が直接アポイントのご連絡を差し上げて、インタビュー調査に伺います。また、2年次に向き合う捕鯨問題については、現在でも捕鯨文化が残る和歌山県太地町を訪問します。このようにして実際に足を運ぶことで感じることを通して、向き合っている課題を「自分ごと」に引き寄せます。

③2年次の研修旅行はシンガポールを訪問

世界探究科の一つのキーワードは、「多文化共生」。シンガポールの多文化共生の光と影を観察してみると、シンガポール特有の英語に触れてみるなど様々な目標を持っています。在シンガポール日本国大使館を訪問して外交について学んだり、現地校との交流、シンガポール国立大学の学生との模擬国連など、盛りだくさんの研修を行います。

多文化共生の時代を迎えています。多様性の時代という言葉も聞かれます。そこには、様々な人がいて様々な生き方に会います。多くの人、文化、価値に出会うことで、多角的視野を養い、多文化共生時代の生き方を探る場が世界探究科であると考えています。

「なごや平和の日・戦後80年」で「屏風」制作へ



キックオフミーティングで説明する榊理事長と加藤教諭

「なごや平和の日」の制定と「戦後80年」を迎えるのを機に美術科の生徒たちによる「屏風」制作プロジェクトがスタートしました。

「なごや平和の日」制定は、東邦高校生徒会の10年越しの活動が大きな原動力となりました。美術科の生徒たちも、生徒会での活動のほか、戦争と平和の資料館「ピースあいち」(名東区)からの依頼で、記念パネルを制作するなどの取り組みに力を入れてきました。

東邦学園では毎年12月、空襲で犠牲になった東邦商業学校の生徒・教員らを追悼する「慰霊の日」での献花式を行っており、今年も12月10日に開催されます。「屏風」制作構想は、「慰霊の日」が、今年で空襲から80年、来年が戦後80年になり、「なごや平和の日」制定の記念にもなるようにと、榊直樹理事長、美術科の加藤広土教諭(日本画)を中心に話が進み、6月12日、生徒たちが参加してキックオフミーティングが行われました。

大学H棟第4会議室で午後3時半から行われたキッ

クオフミーティングで榊理事長は、制作する屏風のテーマを「平和を切に希求し、その築き手である私たちが描く『過去・現在・未来』』としたいとあいさつ。「過去、現在、未来を、1グループ7、8人で描く。お互いに意見がぶつかるかも知れないが、たくさんの人たちが共通のテーマに向かって日本画に仕上げ、2曲3枚の屏風を完成させてほしい」と述べました。

この後、生徒たちは、榊理事長から、制作のコンセプトに参考になりそうな、美術家や作品についての話を聞き、3グループごとのミーティングを行いました。

美術科生徒24人が参加

この企画の呼びかけに対して、美術科の1年生14人、2年生6人、3年生4人の計24人が賛同し自ら制作を希望しました。



榊理事長らの説明を聞く参加生徒たち

キックオフミーティングでは、希望に沿って「過去」「現在」「未来」のグループ分けしたところ均等に8人ずつに分けられました。学年を超えた混成のため、初回は自己紹介や簡単な話し合いまで行い、1曲の屏風のサイズは高さ1800mm×90mm、パネル2枚をつなぐことに決まりました。

3枚見開きでは幅5400mm、東京国立近代美術館(無期限貸与)の戦争記録画の大作と同等の大きさです。今後も生徒達の選択と意志を尊重し、制作を通して平和について考え、希求し、築く契機となれればと願います。完成後、12月10日の「慰霊の日」にて公開を予定しています。

サッカー部が2年連続10回目のインターハイ全国大会出場

サッカーの高校総体(インターハイ)愛知県大会決勝戦が6月8日、岡崎市のマルヤス岡崎龍北スタジアムで行われ、東邦高校が昨冬の全国選手権8強の名古屋高校に2-0で勝利し、2年連続10回目の全国大会出場を決めました。東邦高校の2年連続全国大会出場は初めてです。

杉坂友浩監督は「選手たちは毎日、朝から練習を重ねてきており、それが結果につながりほっとしている。全国舞台で選手たちが強さを発揮してくれるためにやっているの、しっかり準備して戦ってきたい」と2度目のインターハイ全国体大会に挑む抱負を語りました。

主将の山端寧生選手(3年)も「全国舞台で輝いて、自分たちのやってきたことを全国に知らしめたい」と決意を語りました。



喜びを爆発させる選手たち(6月8日)

2023年卒業生の進路

学生・キャリア支援課 松井 慶太



3年生向けに開催された「愛知東邦大学業界研究会」
(2024年2月9日、ホテルメルパルク名古屋にて)

2023年度は384人(9月卒業を含む)が愛知東邦大学を卒業し、社会に旅立ちました。コロナ過が明け、新卒就活事情は売り手市場と呼ばれています。良い環境の中、学生たちはそれぞれに頑張り、大学全体で99.4%の就職率(対就職希望者)となりました。これは本学の歴史の中でも非常に高い数値です。また、進学者も8人となり、日本体育大学大学院や滋賀大学大学院には本学として初めて送り出すことになりました。

この記事を目にしてくれた在学生には、ぜひ先輩に続いて就職活動を頑張ってもらえたら嬉しいです。私達も活動を支援していきます。その中で一つ注意点です。外部環境が良いことはみなさんにとって追い風となり、「内定取得」というゴールに対しては確かに決まりやすい状況です。ただ、「自分自身が納得のいく進路決定」というゴールを設定するならば、大きな努力と成長が必要になります。ぜひこのゴールに向けてチャレンジしましょう。

そんな想いの中、もう一つ数字を紹介させていただきます。2023年度の卒業生に対して、卒業前の12月頃にとったアンケートです。「進路決定先の満足度はどのくらいですか」という問いに対して、大変満足：44.9%、満足：41.2%、合計86.1%が満足以上の回答でした。どちらでもないは13.6%でしたが、やや不満：0.0%、不満：0.4%の回答でした。この結果は支援する担当部署として、とても嬉しい結果でした。ぜひ在学生のみなさんにもこの満足感や達成感を感じて卒業式を迎えて欲しいです。一緒に頑張りましょう。

最後に少し個別のストーリーを紹介させていただきます。東邦高等学校を卒業し、愛知東邦大学で初めてエアラインへの就職を決めた先輩がいます。就職先は全日本空輸株式会社(ANA)です。マルタへの留学やゼミの先生の指導もあり、努力を積み重ねて夢を叶えました。Webページに在学中の様子をインタビューした記事があります。興味がある方はぜひ二次元コード(右上)からアクセスしてみてください。

このWebページは“TOHO Stories”というコンテンツです。この卒業生以外にもたくさんの学生が紹介されています。在学中の取り組みや努力が進路や将来につながっていきます。記事を見ながら在学生一人ひとりが自分の“キャリア”を考えるきっかけになれば嬉しいです。



好評だった「50円朝食」

学生・キャリア支援課

在学生のみなさん、2024年4月10日から始まった「50円朝食」を利用してもらえましたでしょうか？本学では2024年度の授業開講日は毎日8時30分から55分までS棟ロビーにて50円朝食の販売を実施してきました。50円でパンと飲み物のセットは大変好評でした。平均で40人/1日くらいの利用がありました。いつもより「10～15分早く大学に行こう」と思ったきっかけになっていたら嬉しく思います。

新入生には入学式でこの企画を告知しましたが、先輩学生には急な告知となり、急いでチラシやポスターを作った4月を思い出します。そんな企画開始直後の4月中旬に嬉しい協力者が現れました。経営学部谷口准教授のゼミ生2人がチラシを自主製作して持ってきました。4年生の浅井将尊さんと杉野絵梨さんです。企画を知り、すぐに制作してくれたチラシはすごくきれいにまとまっていました。すぐに貼り出し、企画の浸透に貢献してくれたと思います。この場を借りて2人には御礼を伝えたいです。また、朝早くから毎日担当いただいた(株)イープロンの方々には感謝しております。

そして、この企画は後援会の支援をいただき、成立しました。感謝申し上げます。朝食をとらなくなると、その習慣を元に戻すことがなかなか難しいと思います。しっかり朝食をとること、1限の授業に遅れないように出席すること、どちらも学生生活にとって大切な習慣です。引き続き、後援会には多方面で学生生活のご支援を頂戴できれば幸いです。



利用者にぎわうS棟ロビー

Ⅱ 高校／行事・クラブ活動

入学式・学級合宿・遠足を終えて

教頭 大上 雄示

4月6日、爽やかな青空の下で入学式を行いました。新入生705人と保護者の方が出席され、学校の基本的なルールなどの説明を体育館やホームルーム教室にて実施しました。その後、中庭や正門付近で新しい門出を祝う形で記念撮影をしていたり、生徒会からはお祝い餅の提供を久しぶりに行うことができました。



4月23日から25日にかけて、学級合宿(1年)を行いました。コロナ禍では中止や試行錯誤した内容で実施しておりましたが、今年度は岐阜県恵那と三重県湯の山の2か所に分かれ、概ね以前の形に戻して行うことができました。この学級合宿を経て新しく始まる高校生活のスタートが切れたのではないかと思います。



4月24日には、遠足(2・3年)を行いました。2年生は、愛知県を中心に自然散策とバーベキューが当初の予定でしたが、あいにくの天候により雨天コースへ変更となりました。行き先のひとつ、リトルワールド



2年生 リトルワールド

ドでは世界各国の文化や建物を見学しながら、異文化理解を深める貴重な体験をしました。

3年生は、各クラスの希望により京都・奈良・伊勢のコースに分かれ実施されました。生徒たちは日本の歴史と文化を



3年生 嵐山念仏寺

深く学び、またクラスメイトとの絆を深めることができました。

どのコースもそれぞれ特色があり、生徒たちにとって忘れられない思い出となりました。今後もこのような学びの機会を大切にしていきたいと思います。

地域の活動に参加させていただいて

家庭科部顧問 田中 瑞穂

日ごろは、どちらかといえば地道な活動が多いと思われるがちな家庭科部だが、年に数回は学外の活動に参加する。私学が企画するフェスティバルやサマーセミナー、東邦高校が会場となる納涼音楽祭。その時の彼女たちの楽しみは、活動成果を披露することよりも地域の方との交流であろう。子どもであったり、ご高齢の方であったり、どんな方と出会えるかはやってみないとわからない。いつも感じるのは、どのような方が相手であれ、彼女たちは丁寧に話を聞き、一緒に笑っている。ほほえましく、頼もしい。きっとこういう体験が彼女たちを成長させてくれるのだと思う。

調理、手芸の技術が将来の生活に役立てばと授業とは違った視点で伝えようと意識している。地道に身につけた技術をたくさんの人に披露し、喜んでいただけるよう、これからの活動も励みたい。



3年ぶりのNHK杯全国高校放送コンテスト愛知県大会予選突破を目指して

放送部顧問 平上 純一

コロナ禍が収束して約1年、ようやく本来の活動を取り戻すことができ、今年度は1年生19人を加えた45人という大所帯でのスタートとなりました。最大の目標であるNHK杯全国高校放送コンテスト愛知県大会の選手を選ぶオーディションも無事終了し、アナウンス部門で3人、朗読部門で3人がエントリーします。特に1月の愛知県高校放送コンテスト新人大会で悔しい経験をした2年生は、闘志を燃やしています。

県大会は選手に選ばれなかった部員も全員参加で応援することが伝統で、先輩の晴れ姿に後輩が「来年は自分があの舞台に」と目標を定める良い機会です。



発声練習の様子

しかしコロナ禍以降の入場制限が継続され、今年1月の新人大会では選手以外会場に入ることができませんでした。県大会では入場制限が撤廃されて選手の頑張りをできるだけ多くの部員が応援できることを願いながら、日々練習に励んでいます。

空手道部インターハイ出場

空手道部顧問 二村 智代



いつも空手道部の活動にご支援いただき、ありがとうございます。空手道部は5月に行われましたインターハイ予選に

おいて男子団体組手優勝、男子個人組手準優勝、女子個人形優勝をすることができ、8月に長崎県で行われるインターハイの出場権を獲得しました。インターハイ出場を2年間逃しており、今年こそはという気持ちでチーム一丸となり臨みました。男女とも個人組手では悔しい敗戦が多く、団体戦に入る前に気合いを入れ直し挑みました。男子団体組手では先鋒、次鋒と負けが続き一つも負けられない状況で3年生が個人組手優勝者を倒し、次へとつなぎ逆転し優勝となりました。昨年度末に広島県で行われた全国選抜大会で初戦敗退した悔しさを忘れずに戦った成果だと思います。ここまで来るまでには、なかなか勝てず苦しい時期が続くなか多くの先輩方のお力添えがあり、部員たちは成長できたと思っています。感謝申し上げます。ありがとうございました。

今年度のチームの目標はインターハイでベスト8になることです。全国トップとの差はまだありますが、気持ち次第で行動を変え、結果を変えることは出来ると確信しています。今後とも空手道部へのご支援よろしくお願い致します。

高等学校DX加速化推進事業採択にあたって

情報科 山本 俊秋



東邦高校は文部科学省の「高等学校DX加速化推進事業(DXハイスクール)」に採択されました。この事業は、大学段

階でのデジタル・理数分野への学部転換を支援するた

めに、高校段階でのデジタル分野における人材育成を強化することを目的とするものです。

本校では、本事業を活用し、2025年度開設予定の世界探究科におけるデータサイエンスの授業、普通科における情報Ⅰの授業でのデータ分析に備え、GPUを活用した高性能な演算環境を整備します。

これにより、生徒は大規模データの解析や機械学習の基本を学び、実際のデータを用いた分析や予測モデルの構築を通じて、論理的思考力やデータに基づく問題解決能力を養います。さらに、この整備に合わせ、美術科における総合探究でのAdobe Creative Cloudの利用環境が改善され、快適な制作環境の提供も可能になります。

2024年度より大学共通テストにおいて、情報Ⅰが課せられます。それに加え、大学個別試験でも実施を表明する大学もあります。本事業を活用し、こうした受験への対応はもとより、生徒一人ひとりが将来のデジタル社会に対応できるスキルを身につけ、大学やその先のキャリアにおいて活躍できる人材の育成を目指していきます。

公開授業週間で新人教員研究授業を実施

教務部長 宮田 賢二



6月の公開授業週間では、中堅教員と新人教員1・2年目を中心に、研究授業を実施しました。この取り組みは、教員の成長を促進し、教育の質を向上させることを目的としています。公開授業期間中、授業は前後の扉を開放して行われ、よりオープンな環境での指導が推奨されました。

各教員は事前に授業内容を十分に準備し、生徒の理解を深めるための工夫を凝らしました。授業後には、同僚や先輩教員からのフィードバックが行われ、教員同士の意見交換やアドバイスが活発に行われました。特に、新人教員にとっては、実際の授業を通して自身の指導方法を確認し、改善点を見つける貴重な機会となりました。

このような取り組みを通じて、教員一人ひとりのスキル向上が期待されるとともに、学校全体の教育環境の質の向上にも寄与すると確信しています。今後も継続して公開授業を実施し、教員の成長を支援していく予定です。

大学／行事・クラブ活動

5年ぶりに3学部合同で入学式



入学式が4月2日、S棟2階アリーナで行われました。新型コロナウイルス対策もあり、2019年度以来5年ぶりの3学部

合同、保護者同伴での式典開催となり、331人の新1年生が大学生生活をスタートさせました。新入生は経営学部161人、人間健康学部121人、教育学部47人、経営学部3年次編入学生2人。

日テレ・東京ヴェルディベレーザの神谷選手から母校にユニホーム



女子サッカーWEリーグの日テレ・東京ヴェルディベレーザ(東京NB)で活躍する愛知東邦大学卒業生の神谷千葉選手

(2023年卒)からサイン入りユニホームが寄贈されました。

神谷選手は昨季、なでしこリーグ1部の朝日インテック・ラブリッジ名古屋で活躍し、東京NBに移籍。米澤好騎監督が4月4日、榎直樹理事長に神谷選手からのユニホーム寄贈を報告し、H棟玄関横の展示コーナーに飾られました。

部活・サークル団体の勧誘会にぎわう



部活動・サークル勧誘会が学生会の呼びかけで4月16日昼、S棟1階ロビーで開催され、にぎわいました。勧誘を行ったのは

強化指定クラブ以外の21団体。ロビーに配置された机のそれぞれの場所でチラシを配りながら勧誘の声掛けを行いました。

宮本ゼミとJR東海バスが2024年度商品開発でキックオフミーティング

経営学部の宮本佳範教授ゼミが、今年度もJR東海バスと連携したツアー企画を商品化することになり、5月7日、多目的室1で企画プロジェクトのキック

オフミーティングが開かれました。JR東海バスから企画営業部販売促進課の大野晋課長と栗野茂仁香さん



が、宮本ゼミからは宮本教授とゼミ長の村上敬悟さん(3年生)らゼミ生9人(2年生3人、3年生3人、4年生3人)が参加。①官公庁の補助事業申請を行う②商品設定は12月～2月中旬③基本は日帰り商品④発売開始は商品設定日の少なくとも1か月前⑤マスコミ露出を図る⑥東邦学園「なんでもチャレンジ」にエントリーするなど方針が確認されました。

学生大会で酒井会長ら新執行部を選出

2024年度学生大会が5月15日、LCホールで開催され、学生会長に教育学部3年生の酒井来実さんを再選、新執行部が選出

されました。大会には代議員やクラブ・サークル代表ら65人が出席しました。新役員7人は次の通りです。(敬称略)



◇2024年度執行委員会役員

会長 酒井来実(教育学部3年)▽副会長 磨島輝紀(経営学部国際ビジネス学科3年)、渡邊俊輔(同3年)▽書記 紀平将英(同3年)、平出駆(経営学部地域ビジネス学科2年)▽会計 佐野愛斗(人間健康学部4年)、岡村榛香(教育学部3年)

会長の酒井さんは、「多くの学生の皆さんや各部活からいろんなイベントを起こしてもらい、学生会がそのサポートをすることで、学生会と部活のつながりが深まることを期待しています」と抱負を語りました。

硬式野球部が入替戦連敗で秋季は2部に

硬式野球部は2024年春季1部リーグ戦を1勝10敗の6位(最下位)で終わり、6月1日からパロマ瑞穂球場



連敗で2部降格が決まった硬式野球部
(6月2日、パロマ瑞穂球場で)



東邦高校硬式野球部も駆けつけた
東邦応援席

で東海学園大学(2部優勝)との入替戦に臨みました。

東海学園大学は愛知東邦大が2022年春に2部優勝し、1部昇格を決めた入替戦での対戦校。愛知東邦大学は1日の1回戦を0-6、2日の2回戦を2-5と連敗し、2部降格が決まりました。

スタンドには硬式野球部卒業生や東邦ファンのほか、東邦高校硬式野球部員たちも駆けつけ声援を送りましたが勝利への祈りは届きませんでした。

試合終了後、田中洋監督は唇をかみしめる選手たちを前に、「監督としての力が及ばずこういう結果になり申し訳ない」と頭を下げました。試合中、大きな声で声援を送り続けた榎直樹理事長は、「2年前、悲願の1部昇格を成し遂げた先輩たちに申し訳ないという気持ちでいっぱい。田中監督の気持ちを受け止め、この悔しさを絶対に忘れず、秋のシーズンに向けてほしい」と選手たちに訴えました。

日進市制30周年×愛知東邦大学「なつまつり」の開催

女子サッカー部監督 米澤 好騎

女子サッカー部は大学日進グラウンドで8月4日、学生が主体となり企画した、お祭りとサッカーを掛け合わせた「なつまつり」のイベントを開催します。

昨年の「なつまつり」は「女子サッカー部として日本一応援されるチームになろう」という目的で初めて開催しました。今回は、女子サッカー部が、将来のなでしこリーグ参入を目標に掲げた事もあり、目的は「大学のグラウンドが所在する日進市を元気に楽しい街にしたい事」、そして「日進市に女子サッカー文化をつくり根付かせる事」としています。

また、2024年は日進市が市制30周年を迎えます。記念事業として市と一緒に開催することにより、日進市民の皆様に認知されるきっかけになったらと考えています。

「日進市に女子サッカー文化を作りたい」を合言葉

に学生達と準備を進めます。当日の内容は、ステージパフォーマンス、サッカー体験コーナー(名古屋グランパスと共同運営)、ふわふわ遊具や縁日屋台、企業ブース等の設置、盆踊り、愛知牧場さんからは馬も来場してくれる予定です。夕涼みがてら、みなさま是非「なつまつり」にご参加ください。



さらに上を目指して

女子バスケットボール部監督 山村 伸

女子バスケットボール部は、「文武両道」「愛され応援されるチーム」「地域貢献」を基本理念とし、本学体育館とC棟トレーニングルームを中心に活動しています。体育館での全体練習に加え、水・土曜日は人間健康学部のトレーニング科目を主に担当している芝純平先生指導のもと、選手の能力に応じたウエイトトレーニングを実施しています。その他にも定期的な形態評価を実施し、選手のコンディションチェックやトレーニングメニューの修正に活用しています。大学、高校、社会人チームとの対外試合やオープンキャンパスなどの学内イベントにも積極的に参加しています。

チームの状況としては、2023年度の主力選手であった4年生5人が

卒業し、そこに新入生6人が加入したことでチーム内に競争意識が生まれています。チーム内に突出した選



手こそいませんが、どの選手にも出場のチャンスがあることから日々切磋琢磨しています。若いチームなので勢いに乗った時はよいのですが、流れの悪い時間帯をいかに我慢できるかがチームとしての課題です。

2022年度のリーグ戦で2部リーグに昇格し、2023年度は何とか残留することができました、今年度は更に上を目指し頑張っていきます。ご声援の程よろしくお願い致します。

2024年度の取り組みは新たなステージへ

学園スポーツ・文化振興局

2024年3月8日、名東区役所において、「名東区スポーツ・健康×まちづくり」に関する連携協定先である名東区、同区体育協会、同区スポーツ推進委員連絡



「スポーツ・健康×まちづくり部」による活動報告

協議会、同区小中学校長会に対して、報告会を実施しました。

まず、2023年度の本学の取り組みの報告を、昨年度に活動を開始したサークル「スポーツ・健康×まちづくり部」の林空生さん(人間健康学部現3年)と上野凌汰さん(経営学部現2年)が行いました。学生自らの発表に、加藤常文名東区体育協会会長からのお褒めの言葉も頂きました。

続いて人間健康学部の松村講師が、23年度に本学が



調査結果を報告する松村講師

実施した「名東区民のスポーツ・健康に関する意識調査」の報告を行いました。名東区では大会が開催されるなどモルックが盛んだけあって、「実施したことがある・実施したい競技」にもモルックが入っていることや、運動・スポーツを通じた地域活性化活動への興味がある層が29%と比較的高いこと、様々な活動が行われてはいるがPRに改善の余地があること、世代によって媒体を工夫する必要があることなどを紹介しました。松村講師は「区単位でこのような調査が行われたことはこれまでなく、今後どのように変わっていくか、長期的に追いつけていきたい」と話しました。

そして学園スポーツ・文化振興局から、「名東区スポーツ・健康×まちづくり協議会」の設立準備状況について、準備委員会を経てまとめられた骨子案で、2025年度4月からの事業開始を目指すことが、2024年度の愛知東邦大学の活動計画とともに報告されました。

2024年度は、いよいよその協議会を連携協定先や関係する皆様とともに、2025年度に立ち上げるべく活動します。愛知東邦大学は、「幼少期を中心とした多様な

スポーツ・健康関連計測機会の提供と、継続的な事業実施体制の整備」の事業によって、今年度から2026年度までの3年間、公益財団法人スポーツ安全協会から「地域スポーツ・文化活動振興モデル拠点事業」の採択を受けました。



初めてオープンスペースで開催した「駅スポ!!」

実施するスポーツイベントにおいても、新たな取り組みが始まりました。

これまでの小学校等を会場としたものだけでなく、通りすがりの人も参加できるオープンな環境で行います。藤が丘中央商店街振興組合との共催で、愛知東邦大学が「駅スポ!!」と題した、藤が丘中央商店街事務所前広場でのスポーツイベントを始めました。

5月19日に予定した第1回は天候不良の予報を受け中止。6月9日も雨の予報ではありましたが、ぎりぎりまで待って開催を決定しました。時おり雨がぱらつきましたが、100名を超える参加者が思い思いの種目に挑戦し、運営を担ってくれている「スポーツ・健康×まちづくり部」をはじめとする本学の学生スタッフがイベントを支えました。

「スポーツ・健康×まちづくり部」

上野 凌汰さん(経営学部2年)

スポーツ・健康×まちづくり部は、正式に活動を開始して2年目を迎えました。部員2名から始まり、現在では10名まで増え、自身も成長を実感しています。

今年度は、藤が丘中央商店街での「駅スポ」を計6回開催予定です。残念ながら第1回は中止になりましたが、今回開催できた第2回の成果と反省を活かし、残り4回の「駅スポ」や、その他にも予定しているイベントをより良くしていきたいと思っています。

いつも多くの学生がスタッフとしてイベントに参加してくださり、とても感謝しています。スポーツや子供が好きな学生は、ぜひ一緒に活動しましょう！

今後とも、名東区でのスポーツを通じた教育・研究・社会貢献を推進してまいります。ご期待ください。

2023年度の寄付金受け入れ状況

2023年度のご寄付は、皆様から総額 1 億1,017万円をいただきました。誠にありがとうございました。一般寄付(使途を限定しない寄付)、特別寄付(使途を限定した寄付)に分かれており、それぞれ寄付に込められた趣旨を十分踏まえつつ、大学と高校の教育活動支援に充てさせていただきました。内訳についてご説明申し上げます。

◆学園に対する寄付について(320万円)

学校法人東邦学園に対し、特に使途を指定しないものとして学園全体の教育活動に充てる一般寄付金としていただきました。大学・高校に応分に配布し、学生・生徒への日常の教育活動経費に充当させていただきます。

◆愛知東邦大学・東邦高等学校に対する寄付について(4,967万円)

- ・教育研究支援資金として、大学後援会や高校PTA、大学・高校の卒業生から寄付をいただき、愛知東邦大学・東邦高等学校の教育活動経費に充当させていただきました。
- ・大学・高校の施設設備を充実させるため、同窓会などから支援の寄付をいただきました。

◆周年事業に対する寄付について(5,730万円)

現在、学園で計画している「100周年事業計画」に盛り込まれる諸事業の実現のために使用させていただきます。

東邦学園100周年事業募金のお願い

東邦学園は2023年に創立100周年を迎えました。次の100年に向けて更にはばたく意思を込めて、引き続き様々な100周年事業を実施してまいります。

各事業計画を進めるにあたり、学園としても資金を準備していますが、皆様方からもご寄付をお寄せいただきたくお願い申し上げます。

学生・生徒一人一人を見つめ、それぞれの可能性の芽を育むことを教育の柱に置き、混迷の時代を乗り越えてゆける人材を送り出す教育機関に対し、どうかお力添えをお願いいたします。

◇募金目標額 5 億円

◇募金の主な使途

教育環境整備、施設設備の充実、学生・生徒の教育活動への支援

◇お申込期間・金額

【東邦学園創立100周年記念募金】

2021年11月から2026年3月まで

個人：1口5千円、法人：1口10万円

複数口のご協力をお願い致します(1口未満のご寄付もありがたくお受けいたします)。

【百年レンガ募金】 ※原則、高校同窓生・在校生対象

2021年11月から2026年3月末日まで

個人：1口5万円

アルファベットによるご芳名をレンガに刻印、高校グラウンドの周囲に設置させていただきます。

◇お手続き・申込方法

学校法人東邦学園の公式Webページにある「ご支援のお願い」の「寄付のお申し込み方法」にある専用入力フォームからお申込み下さい。

募金に関する学園Webページ：<https://www.toho-gakuen.jp/donation>

